

第 1 回沖縄地方会 活動報告

テーマ：「医師事務作業補助者に期待すること」

開催日時：平成 29 年 10 月 14 日（土）14：00～16：30

会場：地方独立行政法人 那覇市立病院

平成 29 年 9 月に沖縄県支部が発足し、10 月 14 日（土）第 1 回沖縄地方会を開催致しました。実務者名 98 名、医師 3 名、多職種 9 名の 109 名（会員 24 名 非会員 85 名）の方にご参加頂き盛会に終わりましたことを、世話人一同感謝申し上げます。

特別講演①

那覇市立病院 理事長 屋良朝雄 先生

那覇市立病院 病院長 屋良朝雄先生より「医師事務作業補助者に求める事」と題して、医師事務作業補助者に求められる人材像や経営者側からみた、病院経営への影響（利益）についてご講演頂きました。

勤務医が考える「勤務医負担軽減のためにどの職種の増員が必要か」という調査において、医師事務作業補助者は医師、看護師に続く第 3 位であることをお話しされており、私達実務者にとっては激励のお言葉でした。

また、病院経営においても欠かせない存在である！とお言葉も頂き、参加者のモチベーションアップにつながる貴重な講演でした



特別講演②

豊見城中央病院 脳神経外科部長 孫 宰賢 先生

豊見城中央病院 脳神経外科部長 孫宰賢先生に「急性脳卒中治療における MA の働き」と題してご講演頂きました。

脳梗塞超急性期治療の例において、患者さんが救急搬送されてから手術が開始されるまでの MA の動きを時系列でまとめており、検査オーダーや手術同意書、手術室や麻酔科への連絡等、医

師の診察と並行して MA が活躍しているのが伺えました。

医師の事務負担軽減はもちろんのこと、患者さんの予後にも係わるような働きをしてくれている！ MA はチームの一員である！とお話しされておりました。実例によるご講演を頂き、豊見城中央病院で MA が不可欠な存在であり、絶大な信頼のもとで活躍している様子は、参加者からも多くの感銘をうけていました。



実例報告

中部徳洲会病院

中部徳洲会病院 玉那覇 華世さん「新人教育を通しての展望」

院内における医師事務の認知度は上がったが、業務の拡大による医療知識やスキル差を解消すべく、6 か月間実務研修、32 時間研修に加え、マンツーマン体制による教育、外来研修のローテーションの取り組みを発表して頂きました。マンツーマン体制にすることで、質問や相談がしやすく、十分な教育ができること、また、教育者自身も成長できるとの成果がでており、とても参考になる実例報告でした。

中部徳洲会病院 登川 貴奈子さん「文書作成日数の短縮についての取り組み」

医療文書の作成期間を 10 日から 2 週間と設定しているが、期間を超える場合が多々あるため、原因を分析し、改善に取り組んだ実例報告を発表して頂きました。医師の書類確認にかかる日数短縮に向けて、遅れている文書のリストアップをし、医師へ配布・連絡。その結果、文書受付から医師確認まで約 1 日の短縮に繋がっていることがわかりました。

文書に関する医師との連携は多くの施設での課題でもあり、とても参考になる取り組みでした。



最後に、30 施設からの実務者、管理者の方にご参加頂き、また、これから医師事務作業補助者の導入を検討されている施設やクリニックからの参加もあり、関心の高さが伺えました。

地方会にご参加頂きました皆様、開催に際し準備からご協力頂きました皆様方に、心よりお礼申し上げます。



今後も、県内実務者が互いに相談し合い、情報共有できるような実りのある地方会を開催して行きたいと思います。